

平成26年度第3回地域ネットワーク部会議事要旨

日 時 : 平成26年10月8日(水) 18:00~19:00

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員 : 13名

出席者 : 9名

宮里 浩(那覇市立病院)、高江洲 和代(那覇市立病院)、高江洲 アヤ子(那覇市立病院)、
翁長 悦子(中部病院)、鈴木 英章(八重山病院)、佐村 博範(琉大病院)、宮城 みづえ(琉
大病院) 増田 昌人(琉大病院)、仲本 奈々(琉大病院)

欠席者 : 上田 真(中部病院)、照屋 淳(北部医師会病院)、真鶴 善栄(がん患者会連合会)、
川満 博昭(県立宮古病院)

陪席者 : 南 大介(よりよい地域医療を応援する会)、宮永 弥生(琉大病院)、呉屋葉子(琉大病院)

[報告事項]

1. 平成26年度第2回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨について

宮里副部会長より、資料1に基づき、平成26年度第2回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワ
ーク部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. がん地域連携クリティカルパスの適用状況について

宮里副部会長より、資料2に基づき、9月30日現在の3拠点病院のがん地域連携クリティカルパ
スの適用状況について報告があった。

3. 前立腺がん地域連携クリティカルパス研究会の開催について

増田委員より、琉大の泌尿器科が主体となり、日本泌尿器科学会沖縄地方会と沖縄県がん診療連携
協議会が共催で、10月23日に前立腺がん地域連携クリティカルパス研究会を開催すると報告があ
った。

4. 県外の連携状況等の報告および情報提供について

よりよい地域医療を応援する会の南さんより、資料4に基づき、県外の連携状況について、福岡県
が術後アジュバンのパス、進行期の薬物療法パスの連携を検討していることや、山口県は胃・大腸が
んの私のカルテ改訂し、現在、2次医療圏単位で医療者対象にパスの改訂内容の説明会とかかりつけ
医との情報交換を実施していると情報提供があった。

[審議事項]

1. 今年度の事業計画の実施について

佐村部会長より、今年度の事業計画の実施について説明があり、以下の通り事業計画を進めること
になった。

【施策1】八重山・宮古・久米島・北部ではがん診療を行っている医療機関に、院内がん登録を用いて
「症例区分(診断のみ、診断+治療、治療開始後など)」を集計し診療実態を明らかにする。

⇒八重山が県に提出している院内がん登録のデータを頂けるか、確認することとなった。

【施策2】がん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。

⇒離島での開催を行うこととなった。

【施策 3】私のカルテの改訂を行う。

⇒大腸・前立腺がん以外の私のカルテの改訂も進めることとなった。

【施策 4】がん診療連携の在り方を検討する

⇒浦添総合病院に池村クリニックとパスの連携をして頂くよう依頼し、連携後、意見を伺うこととなった。

【施策 5】胃がんと大腸がんの化学療法のパスを作成する。

⇒作成中である大腸がんの化学療法のパスの見直しを行い、進めることとなった。

【施策 6】

術後フォロー以外の前立腺がん地域連携パスを作成する

⇒今後、作成して頂くこととなった。

【施策 7】肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんの地域連携パスの簡素化の改訂を行い、適用数を増やす。

⇒乳がんから地域連携パスの簡素化の改訂を進めることとなった。

【施策 8】前立腺がん地域連携パスの、適用数を増やす

⇒研修会などを開催して、対応する。

【施策 9】症状緩和を目的とした緩和ケア関連の地域連携パスを緩和ケア部会と合同で作成・運用する。

⇒浦添市の勉強会に広報や内容について意見求めるなど進めていることが報告され、琉大でも病棟で使えれば使うこととなった。

【施策 10】小児がんはWG開催し、希少がんはWGを設置する。

⇒国の方針が決まったので、事業計画から外すこととなった。

【施策 11】地域ネットワーク部会の活動を学会報告および実績を論文化する

⇒外科学会で報告しているので実績としてのこせれば、のこすことになった。

2. 胃がんと大腸がんの化学療法のパスについて

山口県の化学療法のパスを参考に、大腸がんは今あるものに合わせて作成することとなった。胃がん化学療法パスは胃がんのWGに提示して意見を求めることとなった。

3. パス普及を目的とした、講演会開催について

各施設、課題が異なるため、それぞれの施設で意見交換会など行うこととし、琉大は大腸がんを中心にかかりつけ医との意見交換会を行うこととなった。

4. 臓器別に各拠点のパス責任者会議の開催について

パスの普及を目的とした意見交換会を行ってから、臓器別に各拠点のパス責任者会議は検討することとなった。

5. 浦添医師会との連携案の継続性について

浦添総合病院と池村クリニックにパスを使用した連携をして頂き、意見を伺うこととなった。

6. その他

鈴木委員より、八重山でも出来ることがあれば協力したいので、院内の纏めかたも含めて教えてほ

しいと意見があり、佐村部会長が八重山でパスの説明会を行うこととなった。開催日等については後日決めることとなった。

高江洲和代委員より、以下、那覇市立の現状報告と連携パスについて提案があった。

- ・適用件数が昨年度から減ってきていることから、外科の医師に周知し協力を依頼する予定。
- ・連携後のフォローを外科ADとナースでチェックしており、その後、連携先のクリニックと患者さんにアンケートを行っていきたい。
- ・前立腺がんパスについて、病棟・泌尿器科外来・泌尿器医師・連携室とで勉強会に参加して、取り組みを進めている。
- ・適用患者が来た時の把握について、外科外来のADがチェックし、経過表と情報提供書は連携室からかかりつけ施設に持参または郵送している。
- ・パス適用患者は算定の有無にかかわらず控えている。名前をADが入力し、算定の有無は医事課に確認している。
- ・連携パスのパンフレットなどがあれば、連携交流会などで医師会の登録医に配布してはどうか。

宮里副部会長より、外来から緩和医療のフォローするためにも、パス患者だけでなく、がん患者を全員登録する体制を作ることを検討していると報告があった。

7. 次回の開催について

次回の開催日は、第一候補は12月10日、第二候補は12月3日となった。